



月刊 千葉労働力車

国鉄千葉動力車労働組合

〒280 千葉市曙町2番8号(動力車会館)

電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 千葉 (22) 7207 番

90.7.10 No. 3249



経営計画許せない

「東日本トツコの座を守れ」「もっと効率を」と「号令」

千葉支社は、一九九〇年度の経営計画を発表し、それを小冊子にして全社員に配布した。

「計画」では、抽象的な美辞麗句をならべたてているものの、結局そこで強調されているのは「もっと働け」と企業エゴまる出しの「号令」をかけていることである。

支社発表の「アンケート結果」も、当局の虫のいい「願望」とは裏はらに「会社への不満等々」が一年より増加していることが数字のうえでも明らかにされているのである。

数字をみず会社への不満

千葉支社アンケートの結果より

「計画」
全体の
特徴

①全体を通し、節々に強調されていることは「黒字経営をめざし」「企業意識を」「チャレンジ精神で！」云々と企業意識をおおっている点であり

②運転保安・安全確保については「安全に対する感性を醸成する」と、旧態依然として現場労働者への「精神主義」のいつそうのおしつけとなっている点である。

③鉄道事業の本来業務と使命を二義的に扱い「事業の多角化」「関連事業

の積極的展開」等々を強調している。このことは「適材適所」「職場の活性化」と称して、いつそのの出向・配転・退職強要などの攻撃と結合させ、今後も組合潰し攻撃と一体のものとして、強引に進めようとしていることが歴然としている。

要するに、安全確保そっちのけで営利第一・組合潰し最優先の経営姿勢を依然として続けようとしているのである。

④黒を白といいくるめる経営計画の美辞麗句、「健全な労使関係を目指し、職場におけるコミュニケーションの展開、風通しのよい明るい職場づくりは軌道にのった」何をかいわんやである。

「今後安定した収入源を得るためには、事業の多角化を進めることが最も重要、本格的な関連・開発に取組む」(三P)

「支社の取扱収入は対前年一〇六・四%、目標に対して一〇〇・六%という高比率で東日本の中

「働こう運動」をあおる当局!

「俺たちは△△社のロボットではないぞ!」

「基本動作の欠如に起因する要注意事故が起きている。取組みの強化が必要」(五P)「社員が安全に対する感性を醸成する必要がある」(一〇P)「怒りなしにこの千葉支社の開き直りを聞くことはできない。盗人だけだしいとはこのことだ。事故の根本的・客観的原因については一切問題にせず、当局の責任もたな上げし、全て現場労働者のゆるみ、たるみが事故を招いているとしているのだ。」

われわれは、東中野事故(八九年一二、五)を決して忘れない。

当局の事故責任転嫁を断じて許さず弾劾しつづけ、反合・運転保安確立の闘いを、以前にも増して強化しなければならぬ。

90年代の勝利へ、新たな10年を切りひらく!

ではトップレベルにある「(五P)」この座を守り、もっと働こう!と号令をかけているのである。そこには労働者(「社員」)への思いやり、労働条件や待遇改善といった問題はおよそ問題にもされていないのである。

「支社アンケート」が語る「不満の増大」

「支社アンケート」が語る「不満の増大」

「支社アンケート」が語る「不満の増大」

俺たちは
会社の
ロボットではないぞ!!



90年代の勝利へ、新たな10年を切りひらく!

90年代の勝利へ、新たな10年を切りひらく!